

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	49
基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進	評価責任者	教育振興課長 横田 和幸
単位施策	4	図書サービスの充実		

1 施策の概要

基本方針	ニーズに応じて蔵書・資料を充実するとともに、移動図書館の推進や利用時間拡大など、住民が利用しやすい環境を整備する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	図書館利用者の利便性の向上と図書の貸出冊数の増加を進めるため、図書館司書によるサービスの向上、蔵書数の増及び親しみやすい図書館の運営を図っている。	図書館利用者の利便性の向上と図書の貸出冊数の増加を進めるため、図書館司書によるサービスの向上、平日の開館時間の拡大及び蔵書数の増加により、図書館環境の向上を図っている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	ニーズに応じて蔵書・資料を充実するとともに、引き続き移動図書館の推進や利用時間拡大など、住民が利用しやすい環境の整備が必要である。	蔵書・資料の充実に伴う開架スペースや閲覧・読書スペースの狭隘化など、利用者が読書活動や学習を行う環境整備を図っていく必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	図書の町民1人あたり年間貸出し数						
	定義等	町民の図書貸出数						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	4冊	4.7冊	6.1冊	7.1冊	5.7冊		10冊
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	読書促進事業	図書業務係	4,998	A	継続/現状維持	A
②	【再掲】図書館施設改修事業	図書業務係	3,281	A	終了	A
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	図書館は、これからのまちづくりの拠点となる施設であり、図書サービスの充実については、住民に対する学習等の機会を提供していくうえで重要な施策である。
② 有効性	A	蔵書・資料の充実を図ったことにより、図書の貸出冊数が増加傾向にあり、住民の利用意欲向上が図られていることから、有効に施策の推進を図った。
③ 効率性	A	図書サービスの充実のため、蔵書については、購入及び寄贈により充実を図るとともに、開館時間の拡大の対応については、職員の時間差での勤務体制により、効率的な運営を行っている。
④ 公平性	A	図書サービスの受益は、全住民を対象としているため、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	図書サービスの充実については、社会教育委員の会議のほか、図書館利用者の意見を取り入れながら、対応を図っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
図書館の利用者数や貸出冊数は増加傾向となっており、生涯学習としての住民の学ぶ機会の提供も図られていることから、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同左	

今後の方向性	今後の方向性	今後の方向性
継続/拡充	継続/拡充	
蔵書の充実については、現行施策を維持し、貸出冊数の増加を図っていくこととするが、狭隘化に伴う施設的环境整備については、住民各層の参画を得て、検討をしていく必要があるため、施策の一部拡充を図っていくものとする。	同左	
*今後の方向性の区分 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		